

2011/02/09 「大学テニユアポスト獲得のためのワークショップ」 総括

ジェンダー学際研究専攻 3年 長田華子

今回、ジェンダー学際研究専攻の院生が主体となって企画した「大学テニユアポスト獲得のためのワークショップ」を無事に終えることが出来、企画者の一人としてホッとしている。卒業生である金井郁氏(埼玉大学)、藤掛洋子氏(東京家政学院大学大学院)のお二人によるわれわれ後輩に向けて発せられた熱いメッセージは、私たちが多かれ少なかれ院生生活を送る中で感じている不安を消しさるようであった。参加者は、ジェンダー学際研究専攻10名、他専攻4名(比較社会文化学1名、人間発達科学1名、ジェンダー社会科学専攻<生活政策学コース>2名)、他大学2名(立教大学、一橋大学、各1名)であった。今回、ジェンダー学際研究専攻の院生を通じた紹介という形でのみ、他専攻、他大学からの参加者を受け入れたが、ここからも一定程度の参加者が集まったことに驚いた。また、他専攻のうち2名は博士前期課程の院生であり、後期課程進学を見据えた意欲的な院生がこの企画に参加していた。

今回の企画を通じて、いくつか成果があったように思うが、ここでは以下の2点について指摘しておきたい。まず1つには、ワークショップという場を設定することにより、日々所属している研究室の枠を超えた形で、院生が集い合い、各々の不安や疑問を共有できたことである。今回、参加者の学年は博士前期課程1年生から、ポスドクまでと開きがあったが、それぞれの立場を踏まえた上で、議論に参加し、互いの状況を知りえたことは、意義深い。参加者相互の学び合いは大きかったように思う。

2つには、お二人の先生方の講義は、ご自身の経験を踏まえた非常に具体性に富むものであり、今後私たちが就職活動をしていく上で重要な点を指摘して頂いたことである。例えば、どのようなペースで研究を進めていったのか、どのような時期にエントリーしたのか、公募情報をどうやって見つけたのかなど、私たちが知っておくとよい情報をたくさん提示して頂いた。また、非常勤講師を含む教員を採用する側(大学担当者)の視点からもご講義頂き、教員採用の際に何が求められているのか、あらかじめ知ることができ、今後の就職活動に臨む際に、気持の余裕が出来たという、参加者からの感想も寄せられている。

今回の企画は、ジェンダー学際研究専攻の院生に与えられた年間予算の一部を使用して行った。前年度までのジェンダー学際研究専攻の院生予算の用途は物品購入に限定されていたが、今回初めて、講師の謝金として院生予算を活用した。ジェンダー学際研究専攻の院生それぞれがエンパワーメント出来るような、院生予算の新たな使い道を提示できたことも、今回の企画の成果だと考える。来年度以降も、このような企画を提案し、実施できることを願っている。